



薬の伝言板

～心不全～



No348 2026年11月
丸子中央病院 薬局

心不全ってどんな病気？

心不全とは、心臓のポンプ機能が弱くなり、全身に十分な血液を送れなくなった状態のことです。単一の病名ではなく、さまざまな心疾患の最終的な状態として現れることが多いです。また、症状が良くなっても完全に治ったわけではなく、悪化や改善を繰り返しながら徐々に進行します。

主な症状

心不全になると心臓から十分な血液が送り出されなくなり、以下のような様々な症状を引き起こします。

1. 息切れ、疲れやすさ
2. 全身のだるさ
3. 呼吸困難
4. むくみ(足の甲、すねなど)、体重増加
5. 末梢冷感(冷え性)



危険因子

- ・虚血性心疾患・・・血流が不足することで心筋がダメージを受け、心臓のポンプ機能が低下します。
- ・不整脈・・・心拍の乱れがあると、スムーズに血液を送り出すことができなくなります。
- ・高血圧・・・長年の高血圧は、心筋を厚く、また硬くするため、ポンプ機能を低下させます。
- ※他にも、心臓弁膜症、糖尿病、喫煙、肥満、運動不足、高塩分な食事、高齢など様々な危険因子があります。

生活管理

心不全の悪化を予防するには、危険因子のような原因となる疾患をしっかり治療することや、生活習慣の管理が必要です。

- ・十分な睡眠とバランスの良い食事
- ・心臓への負担を抑えるための塩分制限
- ・禁煙、適量の飲酒
- ・定期的な体重測定⇒急激な体重増加は心不全悪化のサインです
- ・心臓に優しい入浴(浴室と脱衣室との温度差を減らす、ぬるめのお湯で半身浴など)
- ・血圧管理



主な治療薬



心不全の治療は心臓の負担軽減と心機能の改善が主となります。

また、原因疾患の治療も並行して行われます。残念ながら心不全は治る病気ではありません。症状をコントロールして、悪化を防ぎ、病気と上手に付き合っていくことが重要です。心不全の症状や進行の度合いによって、使用する薬は異なり、併用して使う場合もあります。

①悪化を遅らせる薬

分類	代表的な薬	目的
心臓の負担を抑える薬	エナラプリル、リシノプリル	心不全で過剰に分泌されているホルモンのバランスを調節することで、血管や腎臓への負担を減らす。
	オルメサルタン、ロサルタン	
	サクビトリルバルサルタン	
	エンパグリフロジン ダパグリフロジン	余分な糖や水分を尿に出し、心臓や腎臓を守る。
心臓を休ませる薬	ビソプロロール	心拍数を抑え、血管を広げることで心臓を休ませる。
	カルベジロール	

②症状を緩和する薬

分類	代表的な薬	目的
むくみを取る薬	フロセミド アゾセミド スピロノラクトン	体にたまった水分を尿として排出することで、むくみや息苦しさを改善する。
血管を広げる薬	硝酸イソソルビド ニコランジル	血管を広げることで心臓にかかる負担を減らす。
心臓の働きを助ける薬	メチルジゴキシン ピモバンダン	心臓が収縮する力を強めて、全身に血液を送り出すポンプ機能を助ける。

症状がないことを理由に自己中断で薬を中止してしまうと、心不全の進行が早まり、症状が悪化してしまう可能性があります。処方された薬は医師の指示通りにしっかりと飲み続けることが重要です。薬の飲み忘れを防ぐには、一包化やお薬カレンダーの使用も効果的です。お薬で困っていることがあれば医師や薬剤師に相談してください。



心不全は「予防」と「毎日の生活管理」が大切です。薬による治療だけでなく、食事・運動・体重や症状のチェックを続け、気になる変化があれば早めに相談しましょう。